



ミライアル株式会社 2013年1月期決算説明資料

2013年3月8日





目次

2013年1月期決算概要	2
2014年1月期業績予想	12
弊社を取り巻く業界環境	15
今後の経営戦略.....	17



2013年1月期決算概要



1. 売上高/経常利益の比較

■ 東日本大震災からの復興など緩やかながら景気の持ち直る動きが見られたものの、欧州をはじめとした世界各地での経済の低迷、日中関係悪化の影響等により、依然として先行きが不透明なまま推移いたしました。

■ 売上高は、当社グループの主力事業であるプラスチック成形事業において、年度前半では堅調に推移したものの、秋口からは在庫調整局面の影響により減少しました。その結果前期比2.1%減の11,613百万円となりました。

■ 経常利益は、プラスチック成形事業の生産効率の向上を図りましたが、新製品である450mm容器に係わる費用増があり、減少しました。その結果、前期比8.1%減の2,275百万円となりました。

売上高

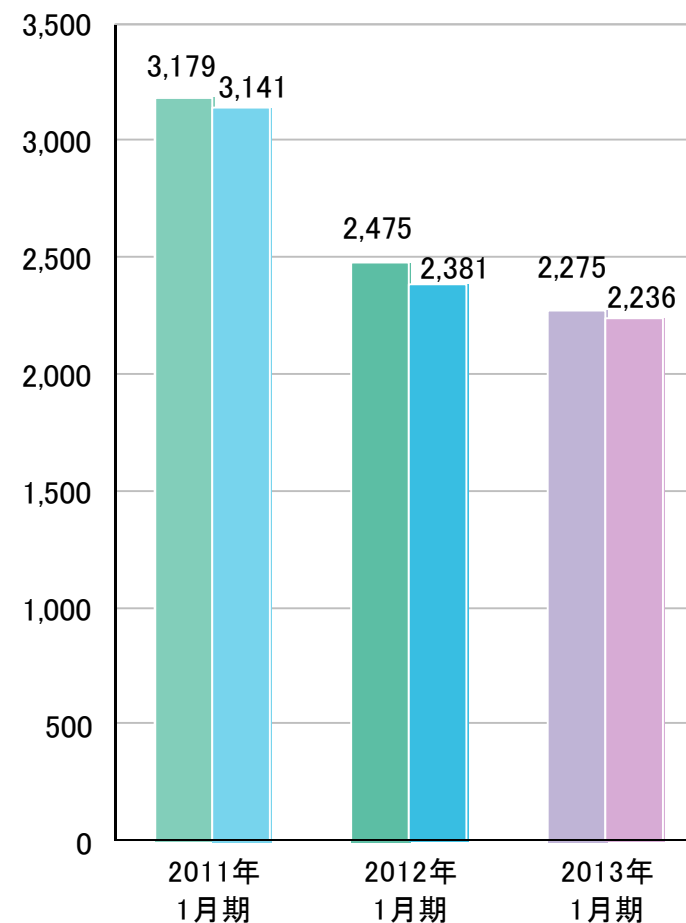
(単位: 百万円)



左: 連結 右: 個別

経常利益

(単位: 百万円)



左: 連結 右: 個別

2. 事業別売上高の比較

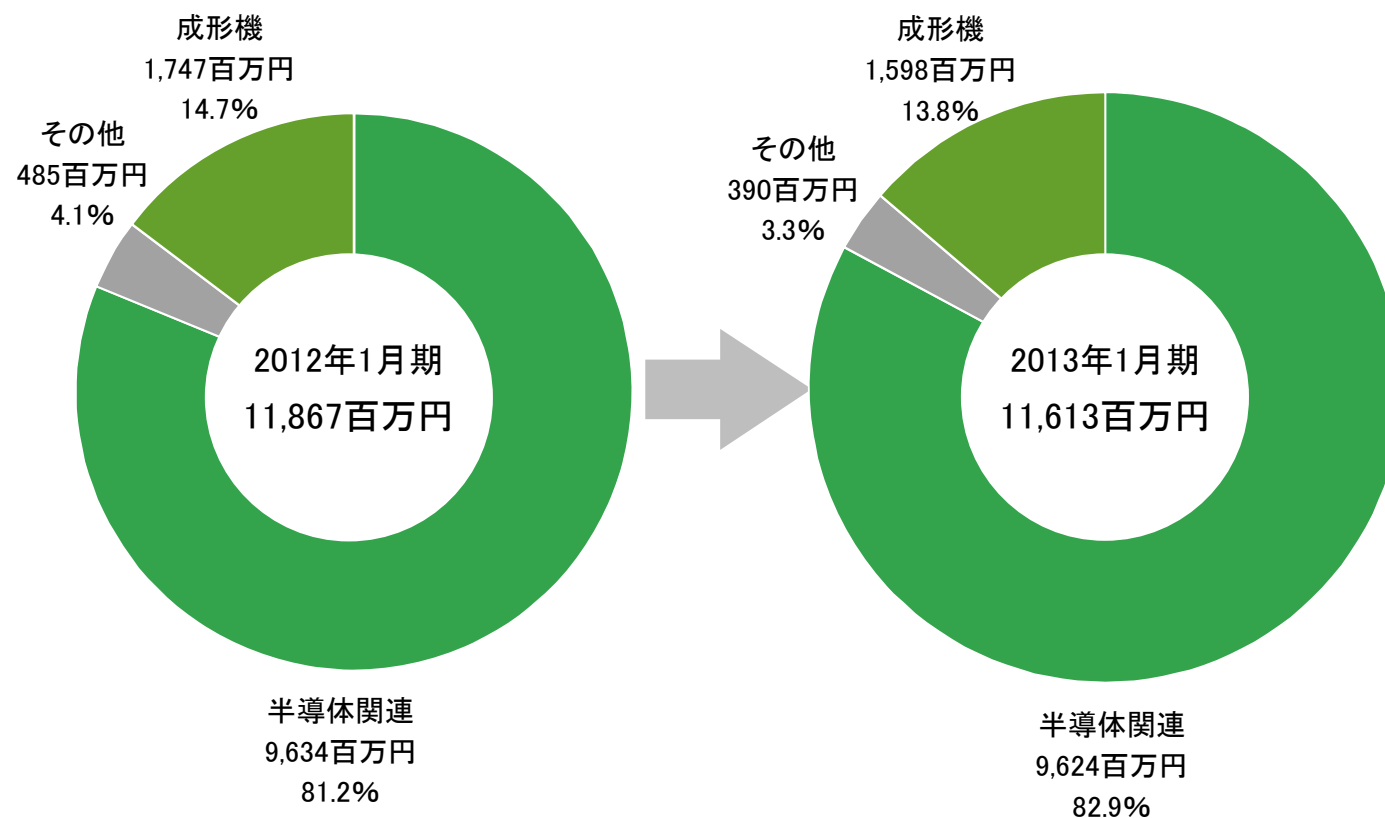
■ プラスチック成形事業

- 半導体関連事業は、年度前半において在庫調整局面から回復し、受注が増加していましたが、第4四半期にて再び在庫調整局面に突入し、売上高は前期比0.1%減の9,624百万円となりました。
- その他事業は、前期比19.6%減の390百万円となりました。

■ 成形機事業

- 当事業は、円高の長期化や外部環境及び国内景気の停滞、海外生産の移行等により、引き続き予断を許さない状況が続いております。これに対して、更なるコスト改善と高付加価値製品の拡販に注力した結果、前期比8.5%減の1,598百万円となりました。

事業別売上高(連結)

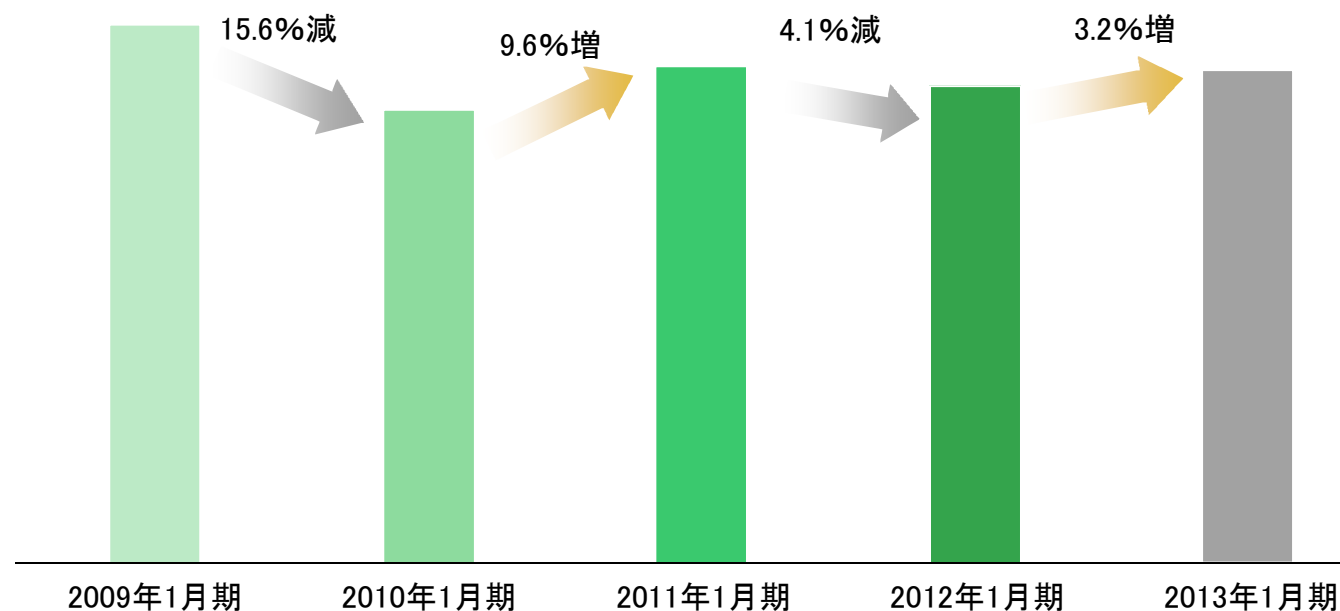




3. 半導体関連製品事業の業績

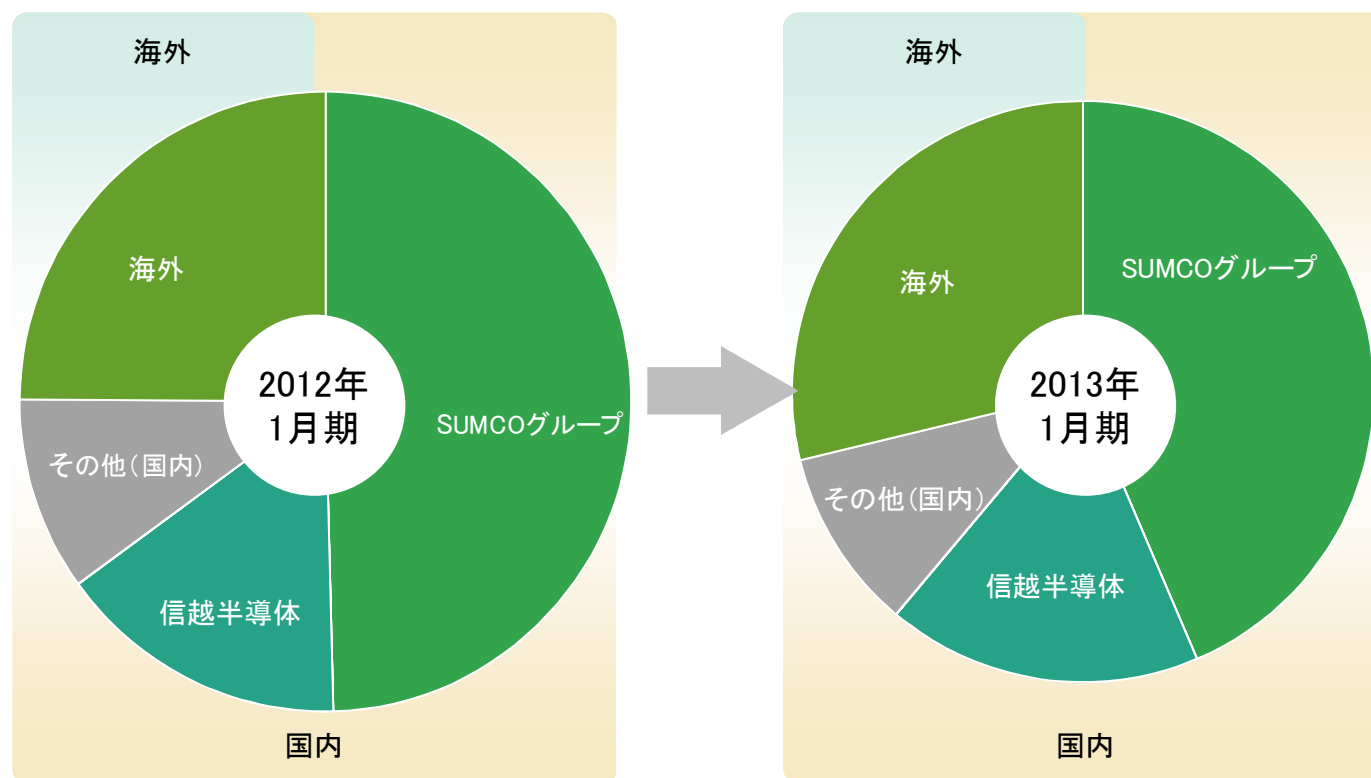
- 出荷容器の売上高は、前期比3.2%増、工程内容器の売上高は、半導体業界の設備投資の停滞を受けて、前期比21.2%減となりました。

シリコンウェハ出荷容器 売上高の推移



4. FOSB出荷実績得意先別シェア

弊社FOSB出荷実績得意先別シェアの動向



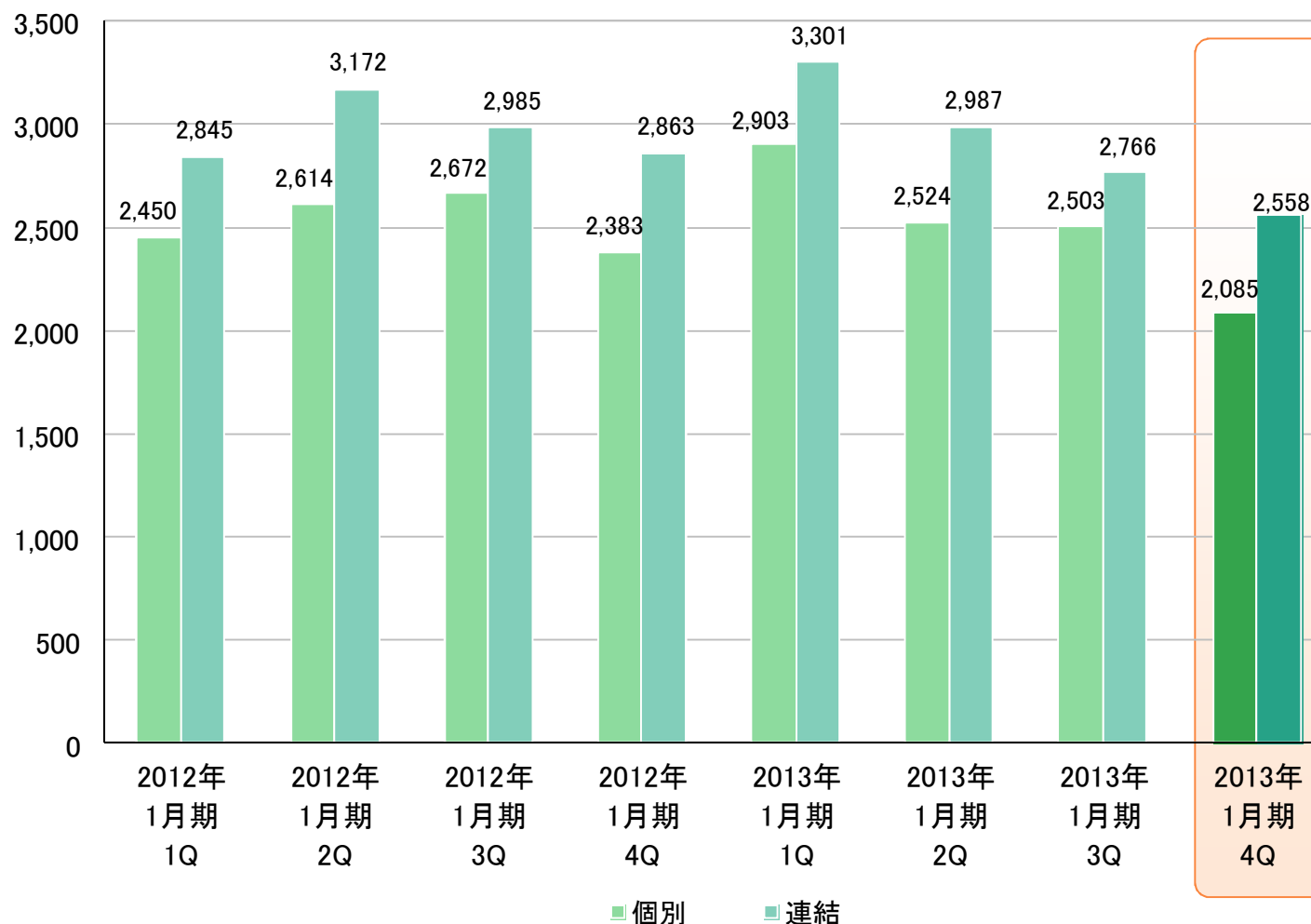


5. 売上高推移(四半期毎)

- 連結売上高は、第3四半期から7.5%減の2,558百万円でした。
- 個別売上高は、第3四半期から16.7%減の2,085百万円でした。
- ミライアル単体は、半導体業界の生産調整・在庫調整等の影響により、年度後半にかけて売上高は減少となりました。

売上高推移(四半期毎)

(単位:百万円)

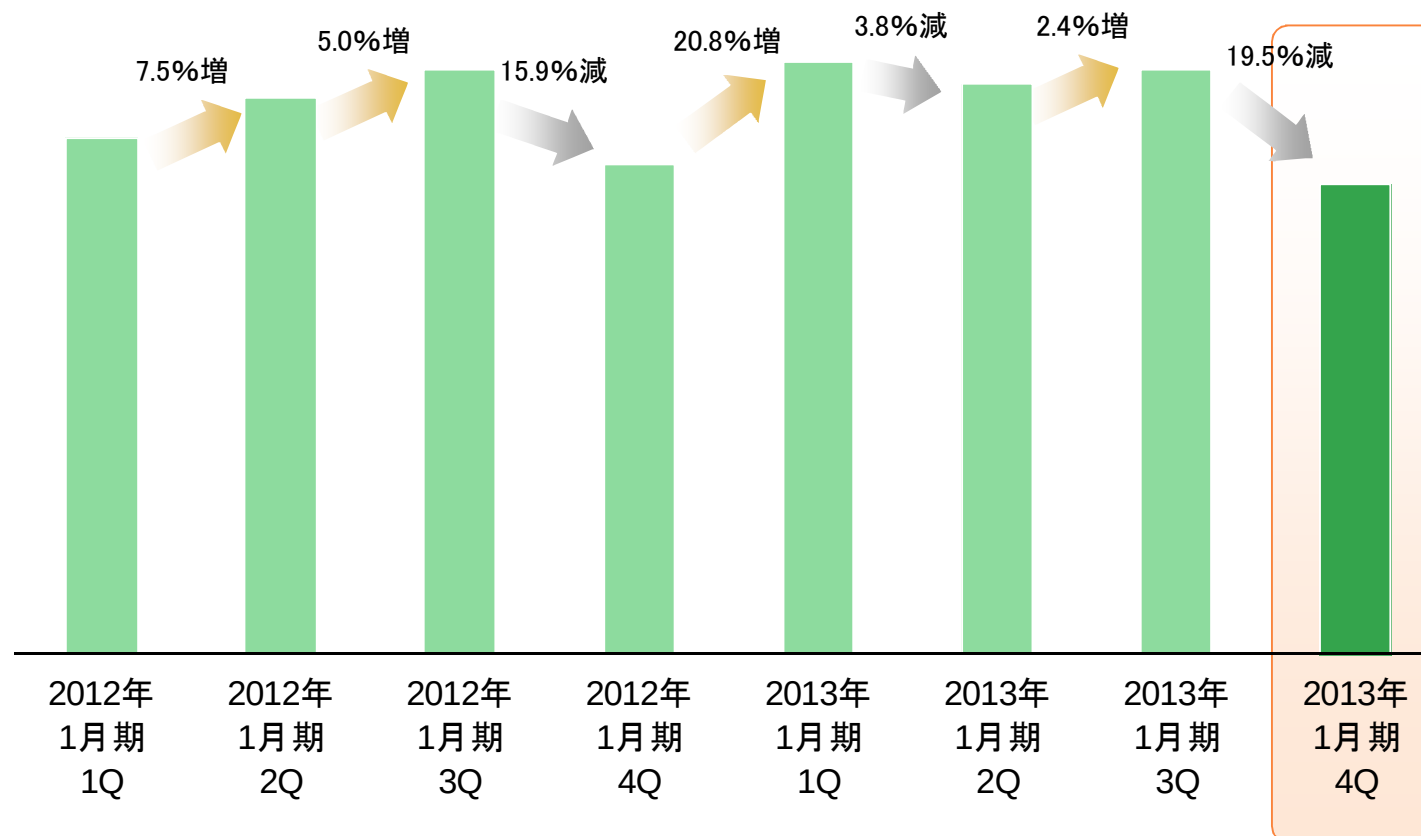




6. 半導体関連事業の業績(四半期毎)

- 出荷容器は、半導体の在庫調整局面により、第4四半期の売上高は19.5%減少いたしました。

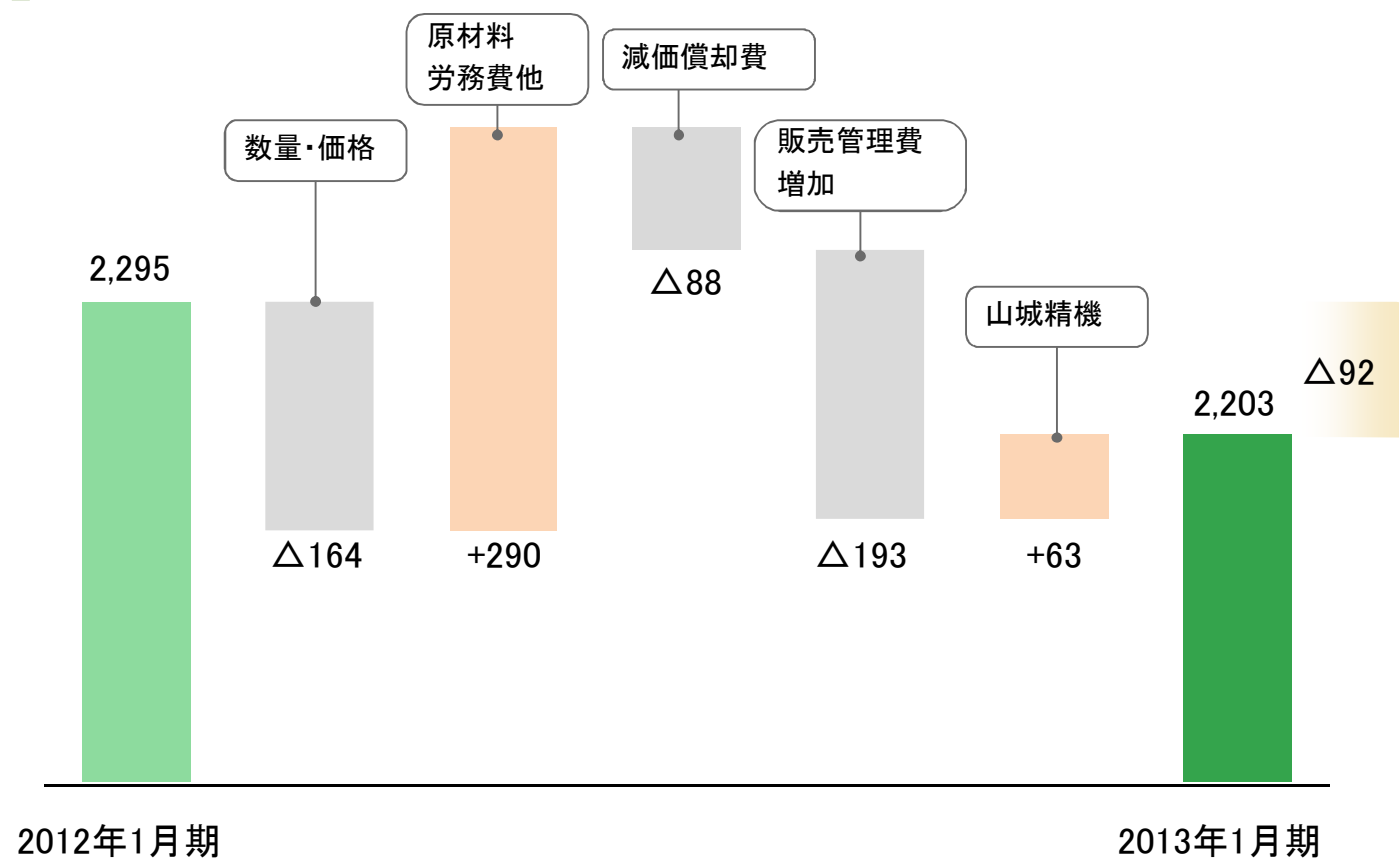
シリコンウエハ出荷容器 売上高の推移(四半期毎)



7. 営業利益増減要因分析(連結)

対前期比

(単位:百万円)



8.(ご参考)業績の概要

連結業績

(単位:百万円・%)

	2012年1月期		2013年1月期	
	金額	前期 増減率	金額	前期 増減率
売上高	11,867	△0.6	11,613	△2.1
売上総利益	4,263	△12.2	4,254	△0.2
営業利益	2,295	△21.2	2,203	△4.0
(営業利益率)	19.3		19.0	
経常利益	2,475	△22.1	2,275	△8.1
税引前当期純利益	2,379	△31.3	2,196	△7.7
当期純利益	1,348	△38.5	1,430	6.1
設備投資	196		991	
減価償却	475		536	
純資産	16,298		17,127	
総資産	20,294		20,547	

個別業績

(単位:百万円・%)

	2012年1月期		2013年1月期	
	金額	前期 増減率	金額	前期 増減率
売上高	10,120	△0.6	10,017	△1.0
売上総利益	3,734	△15.3	3,770	1.0
営業利益	2,325	△23.1	2,170	△6.7
(営業利益率)	23.0		21.7	
経常利益	2,381	△24.2	2,236	△6.1
税引前当期純利益	2,342	△28.0	2,239	△4.4
当期純利益	1,344	△31.9	1,309	△2.6
設備投資	172		1,008	
減価償却	437		506	
純資産	16,019		16,726	
総資産	19,015		19,494	



9.(ご参考)キャッシュフロー(連結)

キャッシュフロー

(単位:百万円)

	2012年1月期	2013年1月期	増減
営業活動によるキャッシュフロー	1,689	1,624	△64
投資活動によるキャッシュフロー	△2,730	△859	1,871
財務活動によるキャッシュフロー	△1,078	△730	347
有利子負債減少	△470	△123	347
配当金支払	△607	△607	0
現金及び現金同等物期末残高	5,316	5,353	36

- 2012年1月期における投資活動によるキャッシュフロー△2,730百万円は、主に3ヶ月超1年未満の定期預金に振り替えたことによる減であります。



2014年1月期業績予想



1. 業績予想サマリー

売上高

- 世界全体の半導体市場規模は、景気循環の影響を受けながらも、マクロ的には拡大を続けていく見通しです。
- 半導体業界の成長率は微増の予想にとどまり、品質向上と更なるコスト削減による競争力の強化を図ってまいります。
- リユースについては、足下で全体の容器量の内、30%前後で推移していると予想しています。今後も同様に推移すると見込んでいます。

営業利益、経常利益

- 既存製品の設備投資は、合理化及び品質維持に要する設備投資に限定します。
- グループでのコラボレーションを強化し、新分野展開、更なるコストダウンを実施します。
- 成形機事業では、市場動向を注視し、付加価値の高い特殊機に重点を置き、利益の確保に注力してまいります。

2. 業績予想

損益計算書(連結)

(単位:百万円・%)

	2013年1月期		2014年1月期(予)			
			2014年1月期 第2四半期累計			
	金額	前期増減率	金額	前期増減率	金額	前期増減率
売上高	11,613	△2.1	4,900	△22.1	10,800	△7.0
営業利益	2,203	△4.0	540	△59.2	1,610	△26.9
経常利益	2,275	△8.1	590	△56.4	1,680	△26.2
(当期)純利益	1,430	6.1	340	△60.9	1,030	△28.0

事業別売上高

(単位:百万円・%)

	2013年1月期			2014年1月期(予)					
				2014年1月期 第2四半期累計					
	金額	構成比	前期増減率	金額	構成比	前期増減率	金額	構成比	前期増減率
プラスチック成形事業	10,014	86.2	△1.0	4,230	86.3	△22.1	9,290	86.0	△7.2
半導体関連	9,624	82.9	△0.1	4,050	82.6	△22.1	8,920	82.6	△7.3
その他	390	3.4	△19.6	180	3.7	△21.6	370	3.4	△5.3
成形機事業	1,598	13.8	△8.5	670	13.7	△22.1	1,510	14.0	△5.5
合計	11,613	100.0	△2.1	4,900	100.0	△22.1	10,800	100.0	△7.0



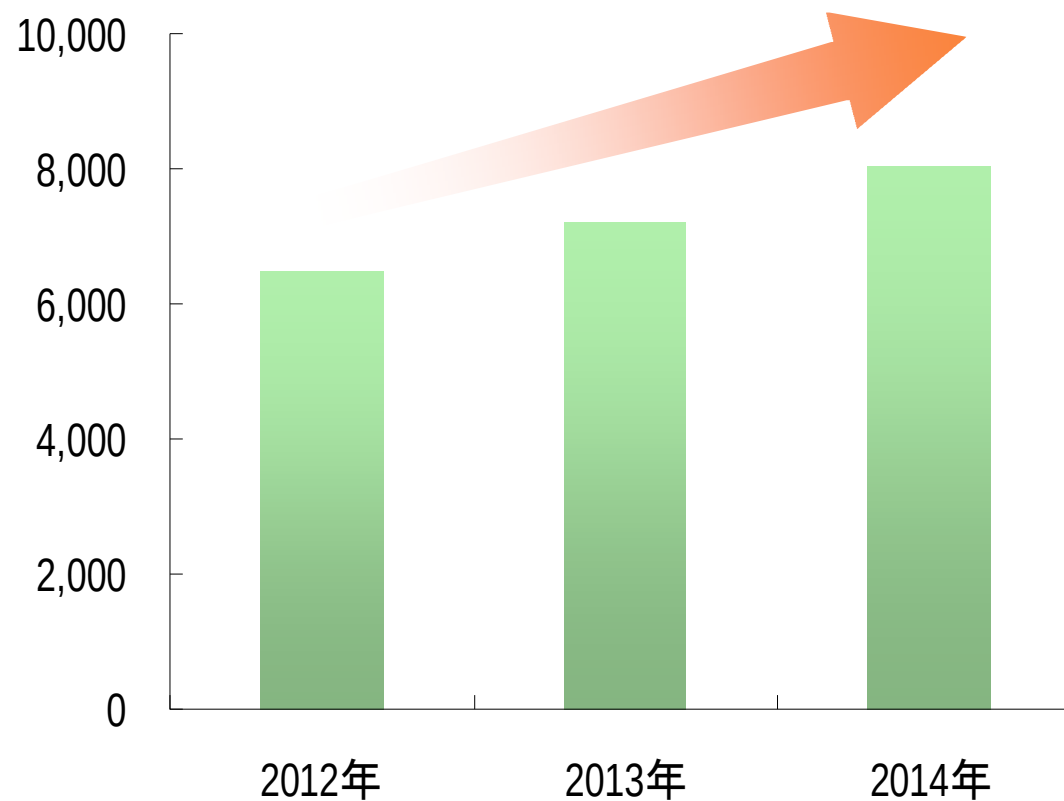
弊社を取り巻く業界環境



300mmシリコンウエハ市場の動向

300mmシリコンウエハ出荷面積予測(100万平方インチ)

- 弊社主力製品FOSBによって搬送される300mmウエハはシリコンウエハ市場の牽引役であり、今後も伸長を続けると予想されています。
- また、小口径ウエハからの移行や、生産用途の拡大等により、一層裾野を広げていく見通しがあります。



出所：弊社推測



今後の経営戦略



基本方針

1. 現存事業の安定利益源化

コスト削減の徹底と品質の造り込みにより、市場でのポジションを維持・向上させてまいります。

■プラスチック成形事業

当社コア技術を見直し新製品開発や販売チャネル拡大に活かすとともに、現主力製品300mmFOSBと同様、次世代450mmウエハ容器においても覇権の獲得を目指してまいります。

■成形機事業

汎用機、LIM機、TF機を主力とし、特殊装置も視野に入れ拡販に取り組むとともに、豎型成形機の特長を活かした成形事業に挑戦してまいります。

2. 新たな収益源の構築

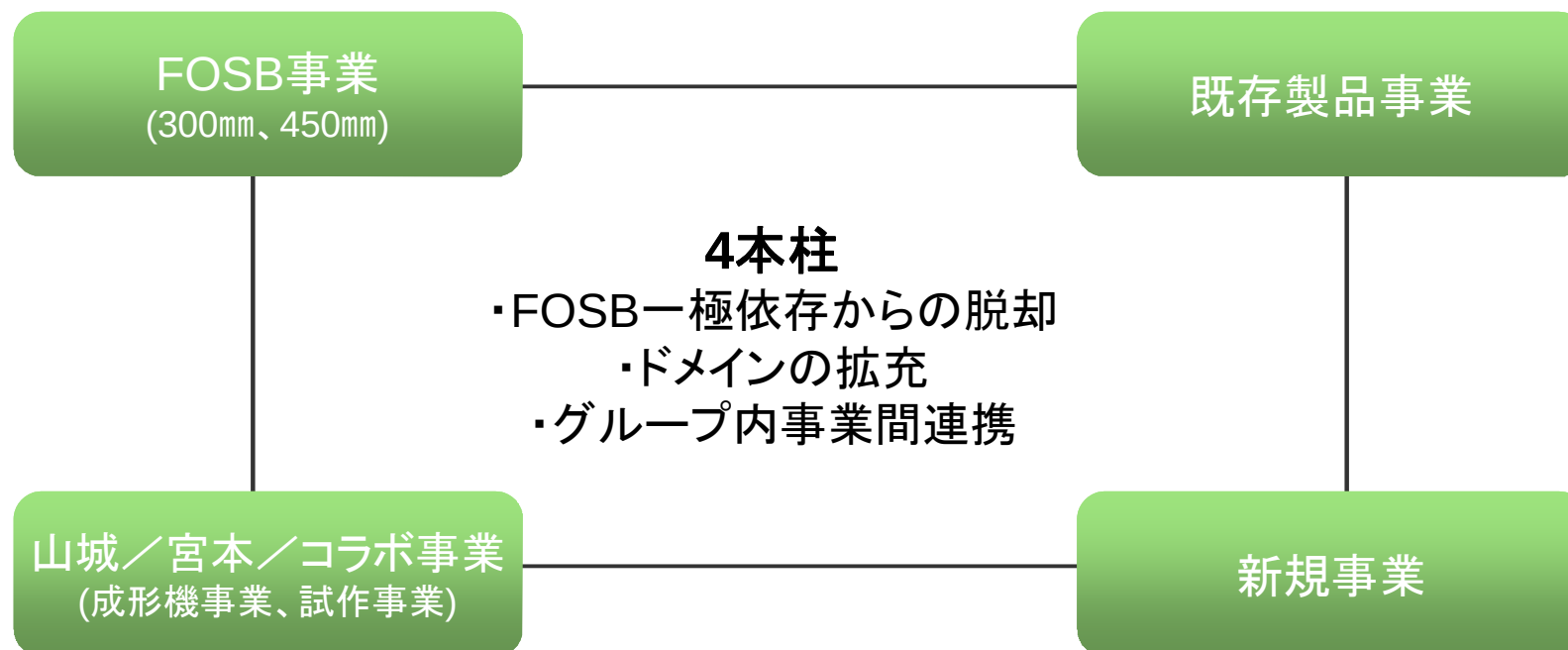
ミライアルグループのコア技術を活かした自社開発、M&Aや共同開発等、内外のリソースを有効的に活用し、新たな収益源となるべき新製品開発・新事業構築に取り組んでまいります。

3. グループ基盤の強化

ミライアルグループが保有する、物的資産、金融資産等の「見える資産」を活用し、人材、技術、お客様との信頼関係等の「見えない資産」の強化に鋭意取り組んでまいります。



ミライアルグループの目指す4本柱経営



現在、ミライアルグループは半導体関連製品事業に主軸を置いており、中でも300mmFOSBを主力製品としております。また、次世代容器である450mmFOSBに関しても、次世代の覇権を獲得すべく努めております。

このように、FOSBは弊社の大きな強みであり、同時に「FOSBに頼っている」という弱みでもあります。

こうした一極集中状態から脱却すべく、半導体業界の枠にとらわれない、グループの人的・物的資産を最大限に活かした新たな事業の展開に挑戦してまいります。また、既存事業においてコスト削減と品質向上による安定的な利益獲得を図り、新規事業挑戦への着実な土台を築いてまいります。

上記の経営目標を達成し、弊社の新たな時代を切り拓いていくステップとして、4本柱(FOSB事業、既存製品事業、山城／宮本／コラボ事業、新規事業)の機能化に取り組んでおります。



本日はありがとうございました

「ミライアルの未来」

明日に向かって

「未来を見つめ」「未来を考え」「未来を創る」

夢と創造に挑戦

IR問い合わせ窓口

ミライアル株式会社 経理部

電話: 03-3986-3782 FAX: 03-3986-3853 E-Mail: investor_relations-m@miraial.co.jp

<将来見通し等に関する注意事項>

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。